

Hello

# friends

2005

9

No.246

KANAGAWA  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION  
NEWSLETTER

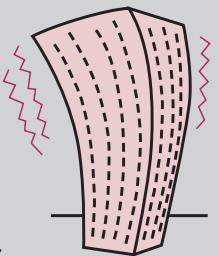
財神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーだ ぶるざ）1階 ☎045-896-2626

## 特集



# 震災に耐える

～多文化共生のまちづくりに向けて～

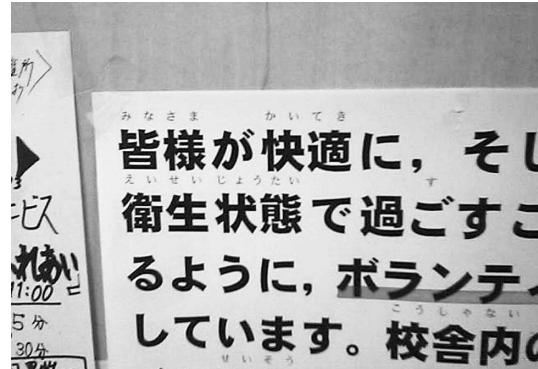


7月23日に首都圏を襲った震度5の地震では、多くの交通機関がマヒし、エレベーターがとまり、電話が不通になるなど、大都市の震災に対する脆さが露呈しました。幸い、大きな被害を残すことはありませんでしたが、大きな都市を抱えるかながわでも、震災について見直す契機になったのではないかでしょうか。

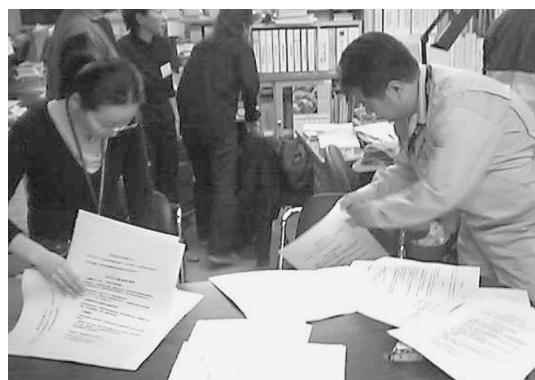
日本で最初の『テレヴァイズド・カタストロフ』（災害の様子が逐一テレビを通して報道された災害）といわれた1995年1月に起きた阪神・淡路大震災から10年の年月が経ちました。とくに震災勃発初期には、不十分な情報と混乱の中で恐怖と不安に陥り、1923年の関東大震災の際に起きた不幸な事件を想い起こした在住外国人の方々も多かったと聞きます。しかし、結果は、幸いにも、朝鮮半島の、中国の、ベトナムの料理を持ち寄って分かちあうなど、それぞれの民族や国籍や文化の違いを乗り越えた相互扶助の精神が發揮されました。

阪神・淡路大震災をきっかけに、主に関西地域を中心に、外国人住民のさまざまな災害対策がおこなわれるようになりました。多言語情報を翻訳できる会社や、多言語情報を日常的に発信するFM局、多文化共生をテーマに活動するNPOなど、民間の支援活動が活発にくりひろげられています。

翻って、かながわの災害に対する「備え」は万全といえるでしょうか。多くの自治体が多言語による防災パンフレットなどを通じて、災害に対する理解の促進をはかってきていますが、これらの情報は充分にゆきわたっているでしょうか。



貼り出される情報には、多言語のものが少ない



多言語に翻訳されたチラシをつくる



精神科医の中井久夫さんは、阪神・淡路大震災時にこんなメモを残しています。「石頭はますます石頭に、頭に血が昇る者はますます血が昇り、逃避的になる者はますます逃避的になる。柔軟な頭はますます柔軟になり、冷静な者はますます冷静に、積極的・行動的・創造的な者はますます積極的などになる」（『1995年1月・神戸』中井久夫編 みすず書房 1995）。

今回の特集では、昨年10月に起きた中越地震の際に、現地（長岡市）と外部のNGO（多文化共生センター等）が連携をとりながらおこなわれた外国人住民被災者救援活動の一端を紹介します。多文化共生のまちづくりに向けて、「冷静」で、「積極的・行動的・創造的」な私たちであるために、震災に備えて、何が必要かを考えてみたいと思います。

\*写真提供は、関口さん（長岡市国際交流センター）



## 中越地震の経験から見たこと

田村太郎さん（多文化共生センター）

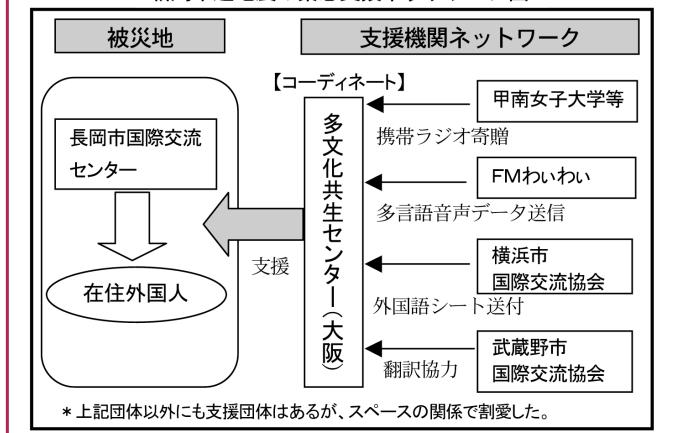
### ●地元と外部の連携、「三角支援」

最初の大きな地震が起きた翌日、テレビで外国人らしい被災者の姿を見つけました。

外国人登録者数を調べると、ブラジル、中國の人をはじめ在住外国人が多い。そこで 25 日に地元の国際交流センター等と連絡を取り合って、26 日に長岡市におじやましました。大規模の災害では地元は混乱します。ただし、どこにどのような外国人がいるかといった現地の事情は、地元の人でないとわからない。そこで地元は避難所を回ったり、どんな情報があるのかを整理したり、あくまでも地元のことにして集中し、外部でできることはどんどん外に出す、例えば翻訳などを担える外部とネットワークで仕事をすることが重要だと気づきました。

ネットワークでは、「国際交流・協力実践者全国会議」<sup>\*1</sup>などを通じて日頃から顔の見える関係が構築されつつありました。例えば翻訳では、武藏野市国際交流協会から、直ちに協力の申し出があり、メーリングリストでは横浜市国際交流協会から「災害時に役立つ外国語のシート集」をお使いください、という連絡もいただきました。こうした外部とのネットワークを活かすためにも、現地と外部の全体の様子をコーディネートできる存在も大切だと思います。長岡市国際交流センター長は「現地」・「支援ができる外部」・「全体のコーディネート」による連携を「三角支援」と呼んでいますが、「全体のコーディネート」にあたるところは、関東、関西など国際交流協会の地域ブロックで担うという考え方も可能だと思います。ブロック内の連携と、ブロック間の連携という両方のレベルがうまくかみ合えば、スムーズにことは運ぶかもしれません。

新潟中越地震の緊急支援ネットワーク図



### ●避難所になったところ

26 日の最初の避難所巡回時に横浜市のシート集と、「避難所に避難していくです」「困ったことがあったら電話してください」ということを呼びかける A4一枚の多言語ニュースレターを配布したり、直接貼ったりしました。また巡回で見たことや気づいたことを次のニュースレターに反映させるとともに、行政から出る情報を被災地外で翻訳するという流れを整えました。

26 日の最初の巡回に私も同行させてもらいました。長岡のブラジル人たちが従事している主な産業は、お餅とか、あられとかの食品加工業です。正月に向けたかき入れ時で、工場はフル稼働で休めない。避難所から工場に通う人も多く、夜行かなないと正しい状況はわかりません。昼間のうちに翻訳してもらった多言語のチラシを持って 4 チームに分かれて巡回をしたところ、かなりの外国人が避難所にいるということがわかりました。長岡市国際交流センターのアンケート調査（05.01）によれば、

11月6日までの期間で、最大で394人が避難所生活をしています。10月28日の巡回時にいちばん多かった避難所は図書館で、中国人が100人ほど避難していました。一方、多くのブラジル人は、車を持っているので車の中にいて、地域の指定された避難所には行っていませんでした。アンケートにも反映されていますが、避難所に行かなかった理由として「必要なかった」の次に、「大勢の人がいたから」が挙がっています。行ったらいっぱい入れないので、車か、空いている市役所、図書館などの公共施設に行く傾向があるということが分かります。

### ●ラジオの効用

一週間後には、長岡市ではもう人々は避難所から自宅に帰りはじめました。そうなると困るのは、避難所巡回をしても必要な情報が伝わらなくなるということ。そこで、ラジオが有効なのではないかと考え、長岡のコミュニティ FM と、十日町の災害時の臨時 FM で、11月から4言語（英語、中国語、ポルトガル語、フィリピン語）でオンエアしました。放送原稿を長岡から神戸の「FM わいわい」<sup>\*2</sup> に送ってもらって、神戸で多言語の音にしたものernetにアップロードして、それを長岡と十日町でダウンロードして流す、という仕組みを作ったのです。

ただ、外国人はラジオを持っていないということでしたので、「FM わいわい」で個人の携帯ラジオの献品や企業の協力を求めました。500 個を超えるラジオが集まり、一部は神戸の学生が長岡まで直接届けました。ラジオには放送時間と言語を書いたステッカーを貼りました。FM 長岡ではこれがきっかけになって、多言語の放送をいまもやっています。

### ●携帯電話

阪神・淡路大震災のときと決定的に違ったのは携帯電話です。外国人も携帯電話を使っています。多文化共生センターの有志で2001年に携帯電話のインターネット接続サービスで外国人向けのコンテンツを提供する会社を作ったのですが、このサービスの利用者が1万人くらいいます。中越地震の情報も多言語で提供したこと、けっこうなアクセスがありました。「携帯電話で災害情報が見られます」、「ラジオで情報が聞けます」、「電話や直接来所されれば相談ができます」というふうに、いろいろなメディアで多言語での情報提供をするということが中越地震では実際におこなえました。今後はエスニックメディアを災害時にどう使うのか、ということも視野に入れていく必要があるでしょう。

### ●大切なこと

計画やマニュアルで漏れがないようにしようというのは絶対無理です。「漏れ落ち」は絶対に発生するという前提で、想定外のことを想定しておくという発想が大事だと思います。例えば神戸も長岡も、避難所のうち、もともと避難所として指定されていた所は 60% で、あの 40% は、災害発生後に自然と人が集まつたので後から避難所に指定された図書館とか市役所などです。多くの防災計画では住民が整然と指定された避難所に来るという前提で計画されていますが、そんなことはありえない。指定外の 40% の部分を逆に想定してどうプランを作るかが問われていると思います。

\*1 地域の国際交流・協力や協会が抱えている問題を解決するために、全国の国際交流協会、自治体、NPO 職員が集う場として作られたもの。所属団体の枠を越えてさまざまな組織の個人と個人が問題を共有し、解決を図ることが可能となるネットワーク形成を目指す場。

\*2 阪神・淡路大震災を契機に、大きな打撃を受けた神戸市長田地区に作られた多言語 FM 放送局。曜日ごとに中国、タガログ、スペイン、ベトナム、ポルトガル、英、韓国朝鮮の各言語の番組がオンエアされる。現在は株式会社として運営され、150 名を超えるボランティアによって支えられている。<http://www.tcc117.org/fmwy/>



## 横浜から見た新潟中越地震

つづら  
廿樂順治さん（横浜市国際交流協会）

た。看護婦という表記を看護師に直す、車の中で避難生活を行う人を対象としたエコノミー症候群などの記述を加えるといったことだ。

### ●広域的ネットワーク・役割分担の必要性

翻訳は、作業を担う者にとって精神的にも体力的にも非常に負担がかかる。

「前日まで使えた避難所のお風呂が閉鎖になったり、次の日には利用できるようになったり…と日々変化する情報を翻訳する作業はきりがないですよ」と廿樂さんは苦笑いをうかべながら話す。今回翻訳を行ったのはネイティブの方たちがほとんどだった。出身国の人たちが困っているのを知り、何とか助けになりたいと思い、活動に参加した人が多かった。

ポルトガル語の翻訳をしたインターナショナルプレスの記者にいたっては、現地での活動が非常に忙しかったことも重なり過労で倒れてしまったという。「できる人がやる」のでは、大きな災害時にとても対処しきれない。

「今回、横浜でタガログ語の翻訳はできなかったが、他の国際交流協会はできたかもしれません。広域的に呼びかけたり調整する組織体制は今後必ず必要になります」と廿樂さんは実感のこもったコメントを残してくれた。

### ●明日は我が身

横浜の市民通訳ボランティアの登録リストは250人程。しかし横浜で災害が起こればボランティアも被災者となるため当然避難し、連絡がどれなくなってしまうだろう。むしろ近隣の市や県に頼るしかないのである。日頃から全国レベルで顔の見える付き合いをし、緊急時には支え合える環境を築くことの大切さを改めて感じる。



### ◆ 多言語表示シート～避難所にそのまま表示できます

- ・新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル（弘前大学人文学部社会言語学研究室 減災のための「やさしい日本語」研究会）  
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/newmanual/top.html>
- ・災害時に役立つ外国語の表示シート集（横浜版）  
(財団法人横浜市国際交流協会)  
[http://www.yoke.city.yokohama.jp/saigai\\_sheets/index.html](http://www.yoke.city.yokohama.jp/saigai_sheets/index.html)

### ◆ インターネット～困ったときはすぐに検索！

- ・多言語生活情報（財団法人自治体国際化協会）  
<http://www.clair.or.jp/tagengo/index.html>
- ・Y2K 問題対策として作成した防災用の多言語情報  
(財団法人神奈川県国際交流協会)  
<http://www.k-i-a.or.jp/Y2K/index.html>

### ◆ サポートマニュアル～ボランティアをコーディネート！

- ・大阪府：災害時外国人センター養成講座  
(大阪府企画調整部国際課 政策調整グループ)  
<http://www.pref.osaka.jp/kokusai/saigai/index.html>

### ◆ ラジオ

- ・災害用 FM 放送局向け 多言語音声素材 (FM わいわい)  
<http://www.tcc117.org/fmwy/nagaoka/index.html>

### ◆ 携帯

- ・新潟県中越地震 多言語情報サイト (グローバルコンテンツ)  
<http://www.atnippon.jp/nigata/>

（財）横浜市国際交流協会（以下 YOKE）では、新潟中越地震の際に「災害時に役立つ外国語の表示シート集（横浜版）」を被災地に提供し、また災害時に必要な情報を翻訳することで外国人被災者の支援を行った。横浜という遠隔地から、この震災をとおし見えたものは何だったのか。精力的に活動を行った情報サービス課長の廿樂順治さんにお話を伺った。

### ●中越地震への関わり

2004年10月26日、すでに被災地に入っていた多文化共生センターの田村太郎さんから「災害時に役立つ外国語の表示シート集（横浜版）」（以下「シート集」と表記）を長岡で使用したいという連絡を受け、すぐにシート集を送付した。

また、翻訳にあたっては、長岡市の災害対策本部のホームページ上にあった、災害のお知らせを翻訳しメールで送ったという。日頃から横浜市の各国際交流ラウンジ間では多言語翻訳について情報の共有を図っており、そのネットワークが役立ったのである。

### ●シート集の背景

1995年の阪神・淡路大震災の時に、被災地の神戸では避難場所で多言語の掲示が多く、多くの外国人が困ったという話を聞き、シート集を作成する経緯にいたったという。避難場所に指定されている小学校など約500ヶ所に配布したものの、避難訓練などへの積極的な活用までにはいたらなかった。

### ●中越で利用して

シート集が完成して、初めて使用された今回の新潟中越地震。「送付したシート集ですが、災害対策本部には物があふれかえっていて、なかなか発見されなかつたんですよ」と廿樂さんは振り返る。シート集はYOKEのホームページからもダウンロードできるため、長岡ではダウンロードしたものを多く活用し避難所に配布していた。実際に使用され、改善すべき点も見つかっ

## 被災地長岡より

羽賀友信さん（長岡市国際交流センター）



広域的なネットワークを活かし、支援が行われた新潟中越地震。長岡市国際交流センターでは震災時の在住外国人の動向や情報の伝達状況を把握し、今後の支援体制を整備するため「新潟県中越大震災在住外国人アンケート調査」を実施した。アンケート結果をふまえながら地域のコーディネート役として活動したセンター長の羽賀友信さんに当時の状況、今後について語ってもらった。

「アンケート回答者のうち避難所の存在をはじめから知っていた人は少なく、職場や友人から情報を得た人が7割近くでした。（財）横浜市国際交流協会から『災害時に役立つ外国語の表示シート』を提供いただき、『避難場所』『トイレは使えます』のシートを避難所に貼り出し、避難所の存在を知らない外国人に知らせることができました」と羽賀さんは言う。

今後は、避難所の存在を分かりやすくするために、避難指定場所、国際交流センターや市役所の電話番号が記載されたカードの作成を行っているそうだ。カードはいつでも持ち歩けるようパスポートにはさめるサイズにする、とのこと。

ところで今回の震災では、阪神大震災を機に開設された神戸の放送局「FM わいわい」の協力を得て、長岡で編集された災害情報の日本語原稿を神戸で多言語化した。音声データをインターネットから長岡でダウンロードし、「FM ながおか」で発信した。上記アンケートでも母国語による情報提供を希望する声が多く、今後は9月から「FM ながおか」で週1回、多言語情報を流すことを計画しているという。ニュースのみでなく、母国の話や音楽も放送する予定だ。「こうした日常生活の情報共有が、災害時のネットワークとして活きてきます」と羽賀さんは熱く語ってくれた。

# 2005年度 秋期英会話講座

A B C D E F G a b c d e f

国際理解のツールとしての英会話を身につけることを目標に、下記の要領で英会話講座を開講します。  
少人数によるきめ細やかな指導を行います。国際交流協会の英会話講座ならではの楽しい雰囲気で、英会話を学んでみませんか。

(財) 神奈川県国際交流協会では、地球市民学習としての英会話講座を下記の要領で開催します。

本講座では、受講生の方を「基礎」「初級」「中級」「上級」「特A」の5つのレベルにクラス分けし、それぞれのレベルに即した英語のコミュニケーション能力を高める講座を行います。

講師が用意する様々な文化に関するテーマ、教材をもとに発話の機会を出来る限り多く設け、ネイティブ講師との対話、グループディスカッションなどを通して、会話力の向上を目指します。

欠席した際に参加出来る補講用のフリートーククラスもあり、充実した内容となっておりますのでこの機会に是非お申込み下さい。

## ●クラス編成

	火	水	木	金	土
10:30	基礎	中級	中級	上級	初級
12:00	下村	シガール	ビル	シガール	シガール
13:30		初級		上級	上級
15:00		シガール	ビル	シガール	シガール
15:30		初級			中級
17:00		シガール			シガール
18:30	中級	中級	初級	上級	初級
20:00	ベース	ジョエル	ベース	ジョージ	ビル
					ベース ジョージ

●期間 2005年10月～2006年3月（各クラス全18回）

●会場 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 あーだぶる1階  
研修室A、B（JR「本郷台」駅改札出て左手すぐ）

●対象 16歳以上

●定員 基礎～上級：12名程度

特A：4名程度

●費用 •受講料 基礎～上級：39,900円、

特A：79,800円 いずれも税込み

•年会費 3,000円

•教材費 実費（3,000円程度）

●レベルチェック 新規にお申込みの方には、クラス分けの目安となるレベルチェックを受けていただきます。レベルチェックは毎週、火・木・土の13:30から、もしくは火・木の18:30から（30分程度）行います。お申込み時にご希望の日時をお知らせ下さい。

●受付 先着順にて承っております。各クラス定員に達次第終了させていただきます。

●お申込方法 電話、Fax、E-mail、来館のいずれの方法でも承ります。①お名前 ②ご住所 ③お電話番号・Fax（メール・携帯もあれば）④ご希望クラス ⑤レベルチェックご希望日をお知らせ下さい。

●問合せ・申込み 国際協力課（担当：水野）

TEL：045-896-2964

FAX：045-896-2945 ※祝日除く月曜休み

E-mail：minsai@k-i-a.or.jp

※無料の体験レッスンを実施しております。日時の詳細についてはお問い合わせ下さい。

## 講師紹介

### 私たちと一緒に楽しく英語を話しませんか？

Please come and join us!



エリザベス・ナイト  
(ベース)

アメリカ・  
カリフォルニア州出身  
初級、中級・  
クラスを担当

日本には20年近く住んでいます。授業ではロールプレイやスキットを使って英会話を学んでいます。DVDを使って英語のドラマを見ることがあります。



ウィリアム・ロナган  
(ビル)

アメリカ・  
ニューヨーク州出身  
初級、中級・  
上級 クラスを担当

KIAで教え始めて2年が経ちました。初級クラスでは会話のポイントを繰り返し練習して、上級クラスでは、レベルの高い文法も扱っています。



ジョージ・ブラウン  
(ジョージ)

アメリカ・  
メリーランド州出身  
上級、Freeクラスを担当

1年前、英語を教えるために来日しました。趣味は山登りと水泳です。授業はペア・ワークやロール・プレイを取り入れて会話力を高める工夫をしています。



ジョエル・ラッシュ  
(ジョエル)

アメリカ・  
カリフォルニア州出身  
中級 クラスを担当

KIAで2年間教えています。授業では、文法や単語よりも「話すこと」を重視して、ペア・ワークやディスカッションをおこなっています。



下村 久美

兵庫県出身  
基礎クラスを担当

授業では自分の伝えたいことが簡単な英語で話せるようになるためにペア・ワークやロール・プレイをおこなっています。



シガール・モシェ  
(シガール)

イスラエル・  
テルアビブ出身  
初級・・・、中級・・・、上級・・・  
、特Aクラスを担当

メリーランドと神奈川県の友好をすすめるために日本に来ました。授業では英会話の練習のほかに、世界のいろいろな国や地域について学んでいます。

# 五感をみがく表現プログラム

身近なものの、感じたことを自分たちの身体や楽器を用いて表現することにより、子どもたちの想像力を膨らませ、豊かな感性を育成します。音楽表現プログラムでは、身の回りの素材を使って手作り楽器を作ったり、短いストーリーを音だけで表現するサウンドドラマを作ります。身体表現プログラムでは、絵本の登場人物になって演じたり、写真や絵をもとにしてお話しに挑戦します。

●日 時：【音楽表現プログラム】

9月18日（日）・

10月16日（日）・

11月20日（日）・12月18日（日）

10：30～12：30



【身体表現プログラム】

1月21日（土）・2月18日（土）・3月18日（土）

11：00～12：30

●場 所：あーどぶつざ 5階常設展示室、創作スタジオなど

●対 象：小学1年生～4年生

●定 員：20名

（事前申込制・ひと月前より受付開始、先着順）

●参加費：無料（常設展示室観覧料100円は必要です）

●問合せ・申込み：地球市民学習課（担当：横山）



TEL：045-896-2899

FAX：045-896-2945

E-mail：gakushu@k-i-a.or.jp

※祝日除く月曜休み

地球市民学習リーダーセミナー

## 世界の半分が飢えるのはなぜ？

- 南の食と文化と日本 -

『世界の半分が飢えるのはなぜ？』 ジグレール教授がわが子に語る飢餓の真実』[ジャン・ジグレール著]の監訳者である勝俣誠さん（明治学院大学国際学部教授）と一緒に「南」の食への理解を深め、私たちができるることを考えます。

●日 時：10月22日（土）13：30～16：00

●場 所：あーどぶつざ 1階・会議室

●対 象：NGO活動やボランティア活動に興味がある人など

●定 員：30名（事前申込制・先着順）

●料 金：無料

●申込み方法：電話、FAX、Eメールのいずれかの方法で、  
(1)講座名、(2)氏名（ふりがな）、(3)所属（学校名や何か参加している団体など）、(4)連絡先（電話、FAX、Eメール）、(5)Eメールアドレスへの講座情報提供の希望有無を下記までお知らせください。

●問合せ・申込み：企画情報課（担当：藤分（ふじわけ））

TEL：045-896-2896

FAX：045-896-2945

E-mail：kikaku@k-i-a.or.jp

※祝日除く月曜休み

※この回は栄区（栄区生涯学習連絡会）  
と共同開催です。



世界の文化セミナー

## 南インド料理講座



広大なインドでは、地域により多種多様なカリーが存在します。

北の地域は、チャパティなどのパンが主食。  
肉類が中心でナツツやクリームを多用します。

それに対し南は米が主食。大変暑い地域なので、スパイシーで酸味をきかせ辛いのが特徴です。

私たちの食生活にとって身近なカリー。ぜひこの機会にバラエティに富んだカリーに挑戦してみてはいかがでしょうか。

●日 時：10月4日（火）・18日（火）・  
25日（火）各日とも10:00～13:30

●場 所：あーどぶつざ 1階料理室

●メニュー（内容は予定です）

第1回 チキンカレー、レモンライス、ラッシー

第2回 ダルカレー、クミンライス、インドコーヒー

第3回 ビリヤニ（インド風ピラフ）

●講 師：石原幸雄先生

インド料理の原点とも言える南インド料理にこだわり  
続け、料理を日本の人に広めたいという気持ちから、  
横浜市泉区に「ガネーシュ」という南インド料理レス  
トランをオープンされました。日本の旬の食材を使っ  
て、親しみやすい南インド料理を提供されています。  
\*「ガネーシュ」は協会のエスニックレストラン  
マップ掲載店です。

●定 員：18名

●料 金：10,500円（3回分・税込）\*協会会員は9,450円

●問合せ・申込み：国際協力課（担当：大塚）

TEL：045-896-2964 FAX：045-896-2945

E-mail：minsai@k-i-a.or.jp

※祝日除く月曜休み



食と暮らしの体験セミナー

## ニーハオ広いぞ、中国！

- 中国の家庭料理つくりと遊び体験 -

「食」や「遊び」を通して様々な国や文化を体験する、子ども主体のセミナーです。

午前は中国の家庭料理作り、午後は中国の遊びを体験します。

●日 時：10月16日（日）10:00～14:00

（受付開始は9：40）

●場 所：あーどぶつざ 1階 料理室、ワークショッフルーム

●内 容：○午前～昼 中国の家庭料理を作ってみよう！

○午後 ・中国語であいさつをしてみよう

・中国のゲーム・遊び など

※内容を若干変更する場合もあります。あらかじめご了承ください。

●対 象：こども優先 小学生以上

（親子での参加も可。外国籍の方大歓迎。）

●持ち物：エプロン、タオル、ふきん、三角巾（バンダナでもOK）

●定 員：25名（事前申込制、先着順）

●料 金：ひとり800円（食材費）

●問合せ・申込み：

地球市民学習課

（担当：木下加奈子）

TEL：045-896-2899

FAX：045-896-2945

E-mail：gakushu@k-i-a.or.jp

※祝日除く月曜休み

※幼児保育あり

（参加者の妹・弟のみ）



# 「草の根国際協力応援バザー」にご協力ください

神奈川県国際交流協会では、今年も NGO 活動支援のためのバザーを開催します。売上げは、すべて「かながわ民際協力基金」への寄付金とし、NGO 活動への助成のために使わせていただきます。皆さまのご来場をお待ちしています（入場無料）。

●日 時：11月27日（日）11:00～14:00

●場 所：あーだぶるざ 3階 企画展示室

## ◆ボランティア募集！

品物の仕分け・値札付け（11月22日～26日、1時間以上）や、当日の販売（11月27日 10:00～15:00）。

## ◆バザー用品の提供をお願いします

食品（保存のきくもの）、楽器、玩具（ぬいぐるみを除く）、雑貨など。品物は、9月15日～11月22日の間に、神奈川県国際交流協会事務局まで持参、又は宅配便でお届けください（恐れ入りますが宅配便の場合は送料のご負担をお願いします）。なお、古着、書籍、ぬいぐるみ、暖房器具等は受け付けていませんので、ご了承ください。

## ●問合せ：国際協力課

TEL：045-896-2964

※祝日除く月曜休み

# 「かながわ民際協力基金」申請募集

## — 個別相談会も開催します —

●対象分野：次の①～⑥のいずれかに該当する活動で、2006年4月1日以降、1年内に開始される事業  
※⑤、⑥については、隨時受け付けます。  
①海外の開発途上地域での協力活動  
②外国籍県民等を対象とした、県内での協力活動  
③国際協力の担い手を育成する活動  
④NGO の組織強化や活動の充実をはかるための活動  
⑤国内外の大規模な災害などに対応して行う緊急支援活動  
⑥NGO と神奈川県国際交流協会が協働で行う活動

●申請資格：県内に活動拠点があるか、主に県内で活動する NGO

●助成上限：①～③ 300万円 ④ 50万円  
(⑤は申請内容により決定、⑥は100万円を上限とする経費負担)

●申請受付期間：2005年10月1日（土）～11月30日（水）

※希望者には申請の手引きを配布します（協会 HP からのダウンロードも可）。

## ◇助成申請個別相談会◇

基金の制度（対象になる事業や実施時期、助成額など）や、申請書の書き方についての相談をお受けします。

●日 時：10月29日（土）、30日（日）  
10:30～17:00

●場 所：パシフィコ横浜展示ホールA  
横浜国際フェスタ2005会場にて

●対 象：基金（協働事業を含む）への申請に関心を持つ NGO 関係者

●参加費：無料

●問合せ：国際協力課（担当：成田）

TEL：045-896-2964

※祝日除く月曜休み

## ●神奈川県国際交流協会（KIA）は—

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切にした「国際交流」「国際協力」を推進する様々な事業を開展しています。

## ●あなたも会員になりませんか？

協会の活動を支える会員を募集しています。

会員になると

①協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGO の催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』をお送りします。

②当協会の出版物の割引サービスが受けられます。

③会員の方を対象にした催しへご招待します。

④『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。

⑤会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

⑥あーだぶるざ のレストラン「メルヘン」でお食事の場合、会員証の提示で、コーヒー、紅茶、グラスワイン、ソフトドリンクの一品サービスが受けられます。

⑦あーだぶるざ ショップ「ベルダ」で2,000円以上（税別）購入の場合、会員証の提示で10%割引が受けられます。

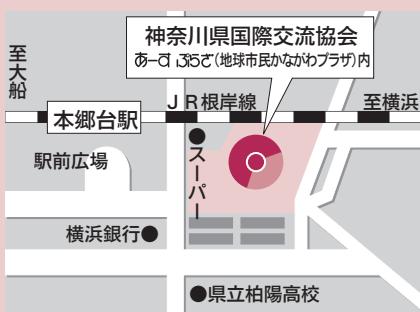
年会費：一般 3,000円から

学生 1,500円から

団体 10,000円から

\*会員登録をご希望の方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

★当協会は、2003年4月より、あーだぶるざの施設運営を含めた全事業を神奈川県から受託しました。



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川国際学生会館を運営しています。

● 2005年7月号から会員の声

を開始しました。これまでお寄せいただいた方の声を掲載いたします。掲載が不可能になる場合があります。予めご了承ください。

桜木保育園・副園長

南宮成根さん  
(ナムダン・シンダン)

奈良市にあります。私は川崎市の南部にある桜木保育園に勤務する者です。当園には、日本人のみならず在日韓国人やフィリピンを文化的背景にもつ子どもたちなど様々な「違い」をもつ仲間が集っています。「違い」を豊かに受け止め、「違い」があるために被る不条理に抗う保育を遅々たる歩みながら進めています。そんな取り組みの中で、毎年必ず訪れるのを、スマに期待してやみません。

## Hello Friends 2005年9月1日発行 第246号

発行／財団法人 神奈川県国際交流協会〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ1F  
TEL:045-896-2626 FAX:045-896-2945 URL:<http://www.k-i-a.or.jp> E-mail: [kikaku@k-i-a.or.jp](mailto:kikaku@k-i-a.or.jp) 印刷／JFEジーエス株式会社

**How to access from keitai menu**

au,TuKa:EZトップメニュー→1.ホガリで探す or English→Global Site→Entertainment→@nippon  
Vodafone(JPhone):メインメニュー(Web Main Menu)→English→Lifestyle&Info→@nippon  
Docomo:インターネット(Internet)→http://phweb.jp→@nippon

**携帯で「ことば」のバリアフリーを**

**アットニッポン**

**携帯多言語情報サイト @nippon**

英語 Tagalog Espanol Portugues

- 毎日のニュースや生活情報などを4言語で提供
- ミニ語学講座など日本人向けメニューも開設
- 月額315円(税込)で全てのコンテンツが利用可能(別途、パケット通信費が必要です)

**TEL: 06-6344-0247, 06-6344-0321** (10am-6pm Mon-Fri)  
**FOR MORE INFO.** (Portuguese, Español, English) (Tagalog, Japanese)  
**Global Contents Co., Ltd.** office@globalcontents.co.jp <http://globalcontents.co.jp>  
 〒530-0003 Dōjima Urban Life 705 2-1-25 Kita-ku Dōjima , Osaka

『Hello Friends』では、2005年7月号から各ページに広告を掲載することいたしました。

県内で国際協力・国際交流活動を展開している市民活動グループをはじめ、図書館、公民館、バースポートセンター、県立高校、市町村国際担当部署、市町村教育委員会、市町村区役所、県庁、個人会員などに配布しています。発行部数は6000部です。

国際協力・国際交流に関心をお持ちの団体、個人へのPRが可能です。どうぞお気軽にお問い合わせください。

公序良俗及び法律等に違反する場合、もしくは当協会が不適当と判断した場合には掲載しかねる場合がございますので、予めご了承ください。